



年6月24日（月） 13時30分～15時30分

会場：鶴瀬公民館 いきいき活動室

参加者：22名

ご紹介後、阿久津翠信さまより、茶の湯の心をこめてのおもてなしについてお話をしてくださりました。

お茶は日本人としての最高の心をこめてのおもてなし。鎌倉時代（源頼朝の時代）初めから（約1000年前）、日本の文化、日本の美意識の1つのお作法として、「侘（わび）・寂（さび）」の「心」である、とのことでした。

茶の湯は心をこめてのおもてなしとされている文化で、席入りやお菓子の取り方等も学ばせていただきました。

伊藤さま、ひださまにお茶を点^{たて}て戴き、大変美味しく至福の時を堪能させて戴き（大変結構なお点前に）ました。

受講生も自分でお茶筌を使い、お茶を点^{たて}てお抹茶を味わっていました。

本日の生菓子は四葩（よひら）の花（コスラウメのピンクをアジサイに見立てた）の「願い糸」でした。



受講生の声

- ・ 日常の忙しさの中で心穏やかな時間になりました。
- ・ とても勉強になりました。
- ・ 雨でしたが心が豊かになりました。ありがとうございました。
- ・ お菓子二種類もとてもきれいでおいしかった。お茶もおいしかった。
- ・ お菓子をお盆にのせて出されたのは艶消しでした。(器を用意していたのに

